



みぬま通信 第47号

2011年7月



みぬまニュース

第45回自然観察ハイキング 『見沼たんぼから盆栽村へ』4月17日

見沼たんぼくらぶ会員28名と一般72名。6班に分かれて、NPO法人自然観察さいたまフレンド所属の自然観察指導員がガイド。初めに見晴公園の風車塔に登った。芝川と見沼代用水西縁の間に広がる低地は田植え前の田圃だった。芝川の東側に迫る斜面林は、さいたま市みどり愛護会のボランティアで保全されている大和田2丁目緑地・大和田緑地公園特別緑地保全地区などだった。まさに見沼の里やまの原風景だ。

次は神明社を経て見沼公園で、淡い黄緑色の花・鬱金ウコンとピンクの濃い八重咲きの花・関山の2種の桜を觀賞した。

それから、クサイチゴの純白な花が咲き乱れる防風林を経て、盆栽村に入った。

昨年3月に開館した世界初の大宮盆栽美術館を皮切りに盆栽園や漫画会館を見学した。風致地区の名に相応しい閑静なまちなみで、ゴミ一つ落ちていなかった。
(小野 達二)

第46回自然観察ハイキング 「見沼の自然と史跡を訪ねて」5月21日(土)

第46回自然観察ハイキングは見沼自然公園 - 見沼代用水東縁 - 上野田氷川神社 - 深井家長屋門 - さぎやま記念公園 - 加田屋新田 - 旧坂東家住宅見沼くらしっく館のコースで実施された。花の咲く野草は多く観察リストには80種載せられている。木本ではトチノキ・スイカズラ・ヤマボウシ・ノイバラ等の花が見られたが、公園内のヒトツバタゴ(写真)は既に花が散っていた。上野田氷川神社周辺ではフタリシズカ・ハハコグサ・キツネアザミなどの花が見られた。深井家長屋門は丁度萱葺屋根の補修中であった。加田屋新田は田植えがまだ先のように水田には水を張っている所が少ない。東縁右岸にノアザミ・コウゾリナなどが咲いている。また加田屋川のヨシの叢ではオオヨシキリが華やかに囀っていた。



ヒトツバタゴ

(若野忠男)

埼玉雑学大学「見沼代用水の歴史と水彩画の風景」 講師 八木一郎(工学博士・見沼スケッチ会主宰)

本通信「見沼たんぼ水彩スケッチ紀行」の八木一郎氏が、埼玉雑学大学の公開講座に講師として登壇されます。

どなたでも聴講できますので、ご興味がある方は下記へお申し込みの上、ご出席ください。



主催：埼玉雑学大学

日時：平成23年7月24日(日) 午前10時～12時
場所：JR北浦和駅前「北浦和ターミナルビル3階・カルタスホール第三会議室」

備考：雑学会員以外の方の聴講は無料。現在のところキャンセル待ちの状況ですので、希望される方は早めに連絡をしてください。

窓口：埼玉雑学大学事務局担当 桜井

FAX：048-722-3470 Email：ts222@jcom.home.ne.jp

見沼たんぼの四季 『夏：田んぼの生きもの達』

田植えが終わって数日経つと、加田屋新田の米作り体験水田は多くの生きものたちの棲みかとなります。10年来農薬を使わず、体験参加の子どもたち等、人の手でひたすら田の草取りをし、消毒もしなかったからか、カブトエビなど珍しい生きものが見つかるようになり、3年前から子どもたちと「田んぼの生きもの調べ」を行いました。

その調査記録集には自前の写真と一緒に116種のような生きものが掲載されていて、その中には埼玉県で絶滅が危惧されている12種、トウキョウダルマガエル、マルタニシ、ドブシジミ、モクズガニ、ギバチ、ヒバカリ、イチョウウキゴケ、サンショウモ、ミズワラビ、キクモも含まれています。

多くの生きもの存在で害虫が害虫化せず、いのちの連鎖による生物多様性が稲を守り育て、実りを迎えることが出来ているのです。(NPO法人・見沼ファーム 21 島田)



田んぼの生きもの調べ

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさん見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

語り掛けてくれる芝川第7調節池の桜

見沼区大和田町の大宮体育館付近の芝川両岸には大きな芝川第7調節池があり、春には桜の花が見事だ。

大宮体育館は昭和53年に開館し、市民にスポーツと活動の「場」を提供しており、東武野田線・大和田駅から徒歩で15分弱と近いために、多くの市民に利用されている。



芝川第7調節池

芝川は桶川市に水源を有し、上尾市、さいたま市等を経由して川口市で荒川に注ぐ25.9kmの荒川水系の河川である。享保12年(1727)、井沢弥惣兵衛いざわ や そうへい為永による見沼代用水の開削に伴い、芝川は排水路として整備され、さらには、見沼通船堀の開設によってできた舟運のための整備が行われてきた川である。

この舟運によって、見沼代用水に沿う村々から、荒川を経て江戸への物資輸送が盛んになり、米、薪、野菜、そして鋳物関係の品々が、昭和初期の頃まで運ばれて行った。しかしながら台風等の豪雨時には、芝川の下流地域はしばしば浸水の被害に見舞われ、昭和33年(1958)10月の狩野川台風では川口市内の大部分が浸水してしまった。それまで芝川の改修工事が行われていたが、こうした事をきっかけに見沼たんぼを「遊水池」として機能させようと考えられるようになった。今、武蔵野線から見える緑区下山田新田地域の見沼たんぼでは、洪水調節容量約550万³mの芝川第1調節池の改修工事が進められている。

大宮体育館付近にある芝川第7調節池も、芝川の増水時の氾濫を制御するもので、普段、西側の池では、多くの市民がランドゴルフ等を楽しんでいる。

4月7日、これらの調節池の周りをゆっくり歩くと、8分ほどに咲いた幾百本もの桜の花に身体は包まれ、実に素晴らしかった。桜の下には女性のグループが幾組か座っており、中には、ビールを飲みながら楽しそうに話を交わしている姿も見られる。歩を止めて良く見ると、どの花も柔らかな淡いピンクの花びらを5枚付けており、はち切れんばかりの力を振り絞り咲き誇っている。一つ一つが優しい花びらで、静かに語り掛けてくれ心を癒してくれる。桜の花は、人の心に咲く花だ。(召田紀雄)

見沼たんぼの斜面林

「見沼たんぼの斜面林」という言葉を聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。見沼たんぼは、元々、谷底低地であり、徳川吉宗の命により干拓される前には広大なため池として利用されていました。低地と台地の境の斜面は雑木林として、燃料や用材、堆肥等を採集するために利用されてきました。この雑木林が現在まで残されていたため、環境や景観の面から重要視され、「見沼たんぼの斜面林」と呼ばれるようになりました。

住宅開発などにより、見沼たんぼの斜面林は小さく断片的になってしまいましたが、一部は埼玉県「さいたま緑のトラスト保全地」や法律による「特別緑地保全地区」、さいたま市条例の「自然緑地」などに指定され守られています。(林)

市民団体による活動が行われている斜面林

見沼たんぼは芝川低地に広がる農地と大宮台地縁の斜面林とが一体化して農村型自然みどり豊かな里やまを形成しています。

埼玉県・さいたま市の公有地や借地の斜面林で、市民団体がボランティアで定期的に保全活動を継続している主な所を紹介します。

- ・土呂自然の森(北区土呂町2丁目) 1,491²m
- ・大和田2丁目緑地(見沼区大和田町2丁目) 1,504²m
- ・大和田1丁目特別緑地保全地区(見沼区大和田町1丁目) 4,159²m
- ・大和田緑地公園特別緑地保全地区(見沼区大和田町1丁目) 13,303²m
- ・南中丸緑地公園(見沼区南中丸字高井) 11,676²m
- ・大谷自然緑地(見沼区大谷字氷川) 4,425²m
- ・浦和西高斜面林(浦和区木崎) 4,000²m
- ・さいたま緑のトラスト保全第1号地(緑区南部領辻) 11,336²m
- ・大牧自然緑地(緑区大牧) 5,280²m

以上の斜面林はいずれも市民団体のボランティアで良く手入れされ、市民の憩いの場所として開放されています。森は葉面積が広いので、多量のCO₂を吸収し多量の酸素と水蒸気を発散することで、人間はじめ動物の健康を守り、地球の温暖化に歯止めをかけています。多様な動植物の楽園になっています。見沼たんぼの斜面林は環境保全林としての大きな役割を果たしていると言えます。だから、私たちはみどりのボランティアで爽やかな汗を流しているのです。(埼玉県環境アドバイザー 小野 達二)

見沼たんぼに関わる人々

これまで見沼たんぼに関わったこられた様々な方々に当時の思い出や、これからの見沼たんぼにかける思いについて語っていただきます。今後、隔月の掲載を予定していますので、ご期待ください。

第1回は、初期の見沼たんぼくらぶの理事・運営委員長として、当くらぶの設立当時をよくご存知の白井法さんに寄稿していただきました。当初、埼玉県土地水政策課の主導により設立された当くらぶは、現在は市民団体が中心となって運営しています。その間見沼たんぼの状況はどのように変わってきたのでしょうか。時代の流れの中で見沼たんぼを取り巻く社会の変化を見てこられた白井さんにお話しを聞かせていただきました。

「見沼田圃に想う」

白井 法（見沼たんぼくらぶ初期の理事・運営委員長、元埼玉県環境部長）

はじめに

1999年(平成11年)9月の「見沼たんぼくらぶ」の発起人会は、私にとって感慨深いものがあった。それは、プロモーターが県の土地政策課であったこと、そして集まった顔ぶれを見ると、私と一緒に見沼田圃の保全運動をしていた数人のほかは、町内会・自治会、農協、農家など自然保護以外の社会活動を背負っている人たちが多かったからである。

設立当初の思い出

その15年前、開発の波が押し寄せて見沼田圃が破壊されそうになった状況を見て、私たちが保全運動に立ち上がった時、保全運動即反体制運動と見なされていた。そして、見沼田圃に何の価値があるのか、田圃なら何処にでもある、と批判された。

私達は「見沼田圃は、大都市の市街地に近接した大規模な緑の貴重な空間として、遊水、防災、農業、レクリエーションなど多くの機能を果たしているだけでなく、『ふるさと埼玉』らしい自然と風景、歴史と文化をもった価値ある市民共有の財産である」と、主張し続けていた。

発起人会では、それを自明のこととして、見沼田圃での活動や将来の在り方が語られるようになったのである。



開発の嵐が吹き荒れていた頃白井さん達が保全のために立ち上げた「見沼たんぼを愛する会」によって初めて作成された見沼たんぼの全体マップ「見沼田圃散策絵図」

現在の見沼たんぼ

2011年の現在、見沼田圃に大規模ショッピングセンター建設を、などと言う人は一人も現れないだろう。100年後もオープンスペースとして存在していることを疑うものはいないと思う。それは嬉しいことだが、少々心配なこともある。と言うのは、水田が大幅に減少して、「田圃」というのに埃が舞うような殺風景な空間が広がっているからだ。『ふるさと埼玉の緑』にもっとこだわりたいと思うのは、無いものねだりだろうか。



白井氏

これからの見沼田圃に想う

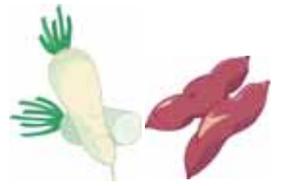
一方では、将来に向かって評価すべき変化も進んでいる。オープンスペースのかなりの面積を公園や遊水池が占めるようになり、社会教育的施設や遊歩道などの整備も進み、桜の木は昔の何十倍にもなった。これらを活用しての市民活動も盛んになっている。これから「見沼たんぼくらぶ」への期待はますます高くなるだろうと思います。そこで是非とも会員数の拡大をお願いする次第です。

ちなみに、私の会員番号は「090010」です。頭の二桁は入会した月を表すものなので、私は10番目の会員ということになります。会員数が5桁になるまでは整理できるように設計されています。事務局に伺いますとまだ3桁の半ばにも達しないとのことなので残念です。

自然学習、文化・芸術活動、健康増進活動などだけでなく、将来ビジョンなどについても、会員の皆さんの一層のご活躍を念じあげております。



見沼たんぼの農家さんのお話



300年間見沼を見守る農家

島田喜之さん

牛馬も入れないような小さな田んぼが多く、^{まんのう}万能ひとつですべて人手で耕していた、江戸時代から続いていたであろうそんな見沼の風景を知っている最後の世代かな、と島田喜之さん。当時は白鷺や小動物も多く、実に自然豊かな所だったそうです。

三室にお住まいの島田さんは、300年来見沼で農業を営み、戦後からバブルへと向かう激変の中で見沼を見つめ続けてきた農家です。元々は米と野菜を作っていましたが、戦後は交通機関の発達によって東北など遠方の米どころから米の輸送が可能になり、米作りが成り立たなくなったため花木を中心とした畑に転換されたとのことです。



島田喜之さん

見沼地域は田んぼから畑に、そして開発の中で土地は切り売りされてきましたが、見沼をこれからどうしていくか、ということに関して今の農家も「開発」ではなく「見沼」として残したい、と思う人が多いということです。公園や緑地として、というのも一つの方法ですが、見沼全体の広さを考えると維持管理などの面はかなり困難だろう、やはり多くは農地として残していくのが最上の策だ、と島田さんはいいます。そのためには、きちんと生計の立つ農業が営まねければなりません。息子さんも農業を継ぐ気持ちがないわけではなかったけれど、今の農業の置かれた状況を考えると、本人によほどの強い覚悟がなければ農業で暮らしていくことは困難だと、島田さんも敢て勧めはしなかったそうです。一方で、専業にこだわることもない、兼業でもとにかく農業を続けていくことが活性化につながるのだ、と。

農地としての見沼の問題は「水」だ、と島田さんは言います。溜井としての歴史が示すように、水が出やすいのです。田んぼとしてならまだしも、畑としては困ります。調整池の建設もそれなりにはずすめられています。それは農地の冠水を防ぐためには機能しないの

だそうです。冠水したら当然作物は駄目になってしまいます。補償もありません。これを防ぐ手立てがないと安心して耕作することができないわけです。

かつて見沼ではその地理的条件を生かして、東京に米や野菜を運んで売っていたということです。今も昔も大消費地に近接しているというのは見沼の強みです。

島田さんは昨年度まで、さいたま市の農業委員会の委員長として市の農業を牽引されてきました。残念ながらもう年齢的に自分には新しい事にチャレンジするエネルギーはない、それは若い世代に託したい、と語られていましたが、身近な農地としての利点を生かした付加価値をつけ、例えば、大規模な展開ではなくかつての引き売りのような小規模ながら機動力のある形で、より消費者に近いところで農産物を提供できるようにしたり、観光農園のような消費者を呼び込む形の展開など、地産地消やグリーンツーリズム、食育をからめた展開に大きな可能性を感じておられます。体験や観光農園としての活用でいつも問題になるのは、トイレと駐車場です。これがないと人を集めるのは難しい。しかし立地条件によっては既存の公園等の設備を利用できることもあるのだから、まずは地域に応じて可能な範囲で工夫していくことが大切だと話しておられました。

終始にこやかにすっきりとした語り口で、現状を見据えた上で考えられる可能性を明確に話される姿に、長年の経験に裏打ちされた、見沼や農業への深い思いを感じました。



西宿バス停から脇道に入ってまもなくの島田さん宅前の直売スタンド。この日はトマト、ネギ、キュウリ、梅花うづきなどが並んでいました。

学校ファームの話になったとき、これはやってみたいねえ、と言われた島田さんの目が実にきらきらとしていて、先を見つめる暖かい眼差しが印象的でした。(高橋)

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「芝川 桜橋の木橋」

通船堀の北にある桜橋は、芝川に掛かる橋の中で唯一の木橋。北に JR 武蔵野線がはしり、その先には第一調整池の工事が進められている。

見沼代用水の排水路である芝川は、桶川市を水源としており、延長 2.5 km。その昔芝村（現川口市芝）地区にあった沼からの流水が芝川と呼ばれ、荒川に合流。この芝川が見沼干拓の水路と結んだので、その名が残ったといわれる。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

見沼たんぼくらぶでは、会員のみなさまの作品をみぬま通信で順番に紹介する誌上展覧会を開催します。絵画や写真、クラフト、詩や俳句など、作品を会員の皆様から募集いたしますので、誌上に掲載する作品の写真または詩文と作品の紹介文を同封の上、本誌 8 ページに掲載の連絡先まで郵送してください。（写真は返却いたしません。）

見沼たんぼに関わる作品を優先して紹介させていただきますが、それ以外の作品でも紹介いたします。会員の皆様の多くのご応募をお待ちしております。なお、紙面の都合上、すべての作品を紹介できない場合もございますが、ご了承をお願いします。



大宮公園ポート池 - 4 2 年ぶりの水抜き（水質改善と外来魚の駆除のために）

撮影者 大迫 芳子（見沼たんぼくらぶ会員）

撮影日 2011年2月4日

見沼たんぼの仲間たち No. 19

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

見沼たんぼ地域ガイドクラブ

見沼たんぼの情報を正しく伝えられる人材として！

見沼たんぼ地域ガイドクラブの成り立ち

見沼田圃は、首都圏30km程の域にある広大な緑地空間(東京・千代田区に匹敵する面積)であります。この地域を訪れる人たちに見沼たんぼの歴史、文化、農業、自然、政策の展開などの情報を正しく知って頂く等のために、人材の養成が必要と考えられます。

こうした目的のため、昨年5月18日に「見沼たんぼ地域ガイド養成講座(実行委員会代表:新井一裕氏)」が開講され、約1年間、45名の受講者が参加され、先の4月5日、修了証書が授与されました。更に修了者は「準備会」を設けて、幾回かの会議を経、正式に、「見沼たんぼ地域ガイドクラブ(以下MGC)」を創設させ、スタートするに至りました。

講座での講義内容は、現地講座を含む視察会と専門講座の2通りでした。

現地講座を含む視察会

毎回、現地での講座を開講し、受講生は3班に分かれてその近隣の視察会を行いました。各班には専門のガイド1名と世話役1名が付き添い、指定されたコースに沿って視察会が行われました。

第1回(平成22年6月15日):見沼たんぼ東部

第2回(平成22年9月21日):見沼たんぼ北部

第3回(平成22年10月19日):見沼たんぼ南部

第4回(平成22年11月16日):見沼たんぼさいたま新都心東方エリアから中山神社

第5回(平成23年4月5日):見沼代用水東縁から氷川女体神社・見沼代用水西縁

屋内における専門講座

平成22年5月から平成23年3月まで、8日間に分けて16講座が行われました。取り上げられた主な内容としては以下に記すことができます。

*見沼たんぼ地域の現状、展望、今後の課題

*見沼たんぼの歴史、文化財、伝説と民話

*自転車でのガイドコース・直売店の紹介

*地域農業の農業振興、農業の現状と課題

*ガイドとしての基本技術、心構え

視察会を含めまして各講座とも、専門家の方々が講師となり、熱心な講義が行われました。プロジェクターを使用したり、パンフレットやガイドマップを使用したり、植物図鑑との照合、ルーペの使用等を行いながら、懇切丁寧に聴講生に対して理解し易い講義・説明をして下さいました。聴講生以上の、講座に向ける熱意の強さに感心させられてしまいました。

この講座の修了証書を頂戴したとはいっても、MGCの会員に取りましては、頂戴したと同時に実質的な養成期間が始まった事と言えましょう。ガイド活動に就く者は、「認定ガイド試験に合格した者」と規約に決められているからです。合格するまでは、自分自身を自分で養成することになるのです。

見沼たんぼ地域ガイドとしての取り組み

一方、ガイドルートの作成、マニュアルや説明資料の作成等々、準備資料の作成作業が並行して始まっており、大変忙しく、「猫の手も借りたい」とよく話の中に出て来ますが、このような状態の事を云うのでしよう。今の時期を含めまして、これからの時期がその状態に当たります。夫々の詳細な作業調整は現在詰めておりますが、5月末には出揃う予定で進んでおります。

ガイド活動のためのこうした準備作業は、9月末までに終わる予定で進んでおります。従って、10月からは実際の活動である「ガイド活動等の開始」を目指す事になり、会員一同張り切っているところで御座います。

私たちの「見沼たんぼ地域ガイドクラブ」は、まだまだ、卵が孵ったような状態です。一步一步とその速度は遅いかもかもしれませんが、会員一同手を固く握りしめ合って、頑張っていきたいと思っております。今後ともご支援、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。(沼田紀雄)

「見沼たんぼ地域ガイドクラブ」

連絡先 安達 竹雄 TEL 048-665-6883

〒331-0044 さいたま市北区櫛引町 2-508-23

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

企画展「夏休み子ども博物館」
期間：7月16日(土)～8月31日(水)
内容：小学生を対象に、見沼通船堀、大昔の人々のくらしなどをテーマにしたミニ展示。
浦和博物館収蔵品展
期間：9月6日(火)～9月25日(日)
内容：近年の寄贈資料を中心に、当館のいろいろな収蔵資料を紹介する展示。

2 三室地区定例探鳥会

日時：7月17日、8月21日、9月18日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分 集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉県支部
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

3 教育普及事業

昔のあそび
期間：7月28日(木)～7月31日(日)
時間：10:00～12:00、13:00～15:00
内容：竹馬、ベーゴマ、おはじき、竹トンボなど昔の子どものおそびに挑戦。
費用：無料(自由参加)
昔のおもちゃづくり
日時：7月30日(土)10時～12時、13時～15時
内容：昔のおもちゃを作ってあそぼう。
費用：30円(予定)(材料費)(自由参加)
クイズ大会
日時：7月30日(土)10時～12時、13時～15時
内容：館内の展示を見て、クイズに答えよう。すてきな景品付き。
費用：無料(自由参加)
文化財さがし
日時：8月2日(火)～8月31日(水)
内容：博物館の中にある文化財をさがしてみよう。
参加費：無料(自由参加)
見沼通船堀のしくみ
日時：8月6日(土)8月7日(日)11時～11時30分、14時～14時30分
内容：博物館の中にある模型を使って、閘門の開閉の説明をします。
参加費：無料(自由参加)
作ってあそぼう(仮称)
日時：8月27日(土)10時～12時、13時～15時
内容：紙とんぼと割り箸鉄砲を作ってあそぼう。
参加費：無料(自由参加)

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

夏休み講座
食卓のお皿作り
日時：7月27日(水)9時30分～12時 費用：1200円(材料費)
鬼瓦風の表札作り
日時：7月28日(木)9時30分～12時 費用：1200円(材料費)
竹の水鉄砲作り
日時：7月29日(金)9時30分～12時 費用：1000円(材料費)
竹の昆虫作り
日時：7月30日(土)9時30分～12時 費用：500円(材料費)
「昔の家」探検
日時：7月31日(日)9時30分～12時
渋うちわを作る 日時：8月2日(火)8月9日(火)
9時30分～12時(2回で1講座) 費用：800円(材料費)
藍染め(生葉)ハンカチ作り
日時：8月3日(水)9時30分～12時 費用：600円(材料費)
藍染め(生葉)ストール作り
日時：8月4日(木)9時30分～12時 費用：1500円(材料費)
布ぞうり作り
日時：8月5日(金)9時30分～12時 費用：1000円(材料費)
竹のおもちゃ作り
日時：8月7日(土)9時30分～12時 費用：500円(材料費)
竹の貯金箱作り
日時：8月7日(日)9時30分～12時 費用：500円(材料費)

紙で編む一輪ざし作り
日時：8月10日(水)9時30分～12時 費用：500円(材料費)
木のコマ作り
日時：8月11日(木)9時30分～12時 費用：500円(材料費)
【以上共通】

対象：は中学生以上の方20人、それ以外は小学生以上の子どもと保護者各10組
申込み：往復はがき(1講座1通のみ)で講座名、住所、全員の氏名、子どもの学年、電話番号を記入。
敬老の日講座
孫の手をつくる
日時：9月19日(祝)10時～12時 費用：200円(材料費)
対象：小学生以上の子どもと保護者各10組
申込み：9月4日(日)から民家園に電話で

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

初山の朝まんじゅう(季節行事/一般公開)
日時：7月1日(金)11時～12時
内容：7月1日の山開きに併せ朝まんじゅう作りをするという当館周辺地域でかつて行われていた年中行事の再現。
七夕馬と昼うどん(季節行事/一般公開)
日時：7月7日(金)10時～11時30分
内容：7月7日に七夕馬と昼うどんを作るという当館周辺地域でかつて行われていた年中行事の再現。
箏曲基礎講座(全4回)
定員：13時～14時30分の部(5名)/15時～16時30分の部(5名)
条件：初心者で全回出席でき、箏爪を御用意できる方
実施日：第1回 7月9日(土)、第2回 7月16日(土)、
第3回 7月23日(土)、第4回 7月30日(土)
申込み：6月21日(火)9時から電話受付。定員に達するまで。
十五夜観月会(童謡合唱/自由参加)
日時：9月11日(日)16時～18時(雨天決行)
指導：嶋村益代氏(ピアニスト)
申込み：なし/直接当館へ

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

子供動物園スタンプラリー
期間：平成23年9月17日(土)～9月22日(木)10時～16時
(ただし、20日(火)は休園日のため休み)
会場：子供動物園内 対象：小学生以下の方
内容：動物を観察しながら、5ヶ所のスタンプを集めてもらう。全問正解者に記念品を配布

大宮第二・第三公園管理事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 詳細は、直接事務所にお問い合わせください。
関口弘呂子のうつし絵展・5 6月22日(水)～7月3日(日)
季節の移ろい写真展 7月25日(月)～31日(日)
スーパー竹とんぼ作品展 7月25日(月)～31日(日)
「恋する木の実たち」P'インクル展 8月22日(月)～28日(日)
四季の写真展 8月22日(月)～28日(日)
森力 花の写真展 9月12日(月)～18日(日)
ピーズと花の世界 9月19日(月)～25日(日)
手づくりバッグと小ものの作品展 9月26日(月)～10月2日(日)
「折り紙 四季の彩り」作品展 9月26日(月)～10月2日(日)
展示者の都合により日程変更する場合があります。

2 イベント 詳細は、直接事務所にお問い合わせください。
大宮第三公園ミニプレーパーク
日時：7月8日(金)10時～13時 雨天の場合、7/15(金)に延期
場所：大宮第三公園みぬまの森 定員：なし 費用：無料
小さな子から大人まで楽しめる竹とんぼ作り教室
日時：7月25日(月)、26日(火)、30(土)、31日(日)
10時～12時、13時～15時
場所：大宮第二公園ギャラリー 定員：なし 費用：無料

見沼たんぼくらのイベント案内

第 82 回見沼塾 『見沼の伝説・民話』

日 時：7月16日(土) 10時～12時
 会 場：市民の森・見沼グリーンセンター中会議室
 講 師：宮田正治・高橋正幸(見沼文化の会)
 申 込：先着40名、事務局へ氏名・住所・電話番号を明示して、葉書又はFAX送信
 交 通：JR宇都宮線土呂駅東口徒歩7分

第 83 回見沼塾 『水の健康診断と合成洗剤』

日 時：7月16日(土) 13時30分～15時30分
 会 場：市民の森・見沼グリーンセンター中会議室
 講 師：大高文子・田中輝子(合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡会)
 申 込：先着40名、事務局へ氏名・住所・電話番号を明示して、葉書又はFAX送信
 交 通：JR宇都宮線土呂駅東口徒歩7分

第 84 回見沼塾 『見沼塾 見沼の自然－身近な昆虫』

日 時：9月3日(土) 10時～12時
 会 場：市民の森・見沼グリーンセンター小会議室
 講 師：牧林 功(埼玉昆虫談話会)
 申 込：先着20名、事務局へ氏名・住所・電話番号を明示して、葉書又はFAX送信
 交 通：JR宇都宮線土呂駅東口徒歩7分

第 85 回見沼塾 『見沼の古事拾遺－庚申塔の里』

日 時：10月8日(土) 10時～12時
 会 場：旧坂東家住宅見沼くらしっく館
 講 師：下村克彦(元さいたま市立博物館長)
 申 込：先着20名、事務局へ氏名・住所・電話番号を明示して、葉書又はFAX送信
 交 通：大宮駅東口からバス 「三崎台」下車

第 86 回見沼塾 『見沼の自然－秋の野の花を楽しむ』

日 時：10月9日(日) 10時～12時
 集 合：大宮第二公園南管理棟
 講 師：小原邦彦(NPO法人自然観察さいたまフレンド)
 申 込：先着20名、事務局へ氏名・住所・電話番号を明示して、葉書又はFAX送信
 交 通：大宮駅東口からバス 「芝川」下車、北側

以上の見沼塾は参加費無料です。

見沼ふれあい農園づくり 1号地、2号地
 秋野菜栽培一種蒔きから収穫まで 子ども連れ歓迎

開 催 日：9月10日(土)(雨天の場合17日(土))
 10月1日(土)・22(土)
 11月12日(土)・26日(土)
 参 加 費：無料
 1号地
 時 間：10時30分～12時
 場 所：緑区見沼610、613地内(宮本2丁目バス停から徒歩8分)
 申 込：1号地、住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記し、葉書又はFAXで見沼たんぼくらぶ事務局へ
 2号地
 時 間：13時～14時30分
 場 所：緑区見沼484地内(朝日坂上バス停から徒歩8分)
 申 込：2号地、住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記し、葉書で埼玉県土地水政策課へ〒330-9301

第 47 回自然観察ハイキング 見沼の自然と史跡を訪ねて

日 時：9月18日(日) 9時～12時
 集 合 地：JR武蔵野線東浦和駅前広場
 内 容：自然観察指導員のガイドで、史跡を巡りながら秋の野の花を観察し、氷川女体神社・見沼氷川公園まで約7km歩きます。
 申 込：当日、集合地で8時30分から受付
 参 加 費：¥500(会員及び中学生以下は無料)
 持 物：雨具、筆記具

市民団体のイベント案内

見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日 時：10月2日(日) 9時～12時
 集 合 地：大宮第二公園南管理棟
 主 催：NPO法人自然観察さいたまフレンド
 内 容：自然観察指導員のガイドで、見沼最大の斜面林『大和田緑地公園特別緑地保全地区』や見沼1丁目に広がる文字通りの『見沼田圃』を歩き、秋の野の花や小動物を観察します。
 申 込：当日、集合地で8時30分から受付
 参 加 費：¥500(中学生以下は無料)
 持 物：雨具、筆記具
 交 通：大宮駅東口からバス 宮下行き「芝川」下車
 大宮発8：15 または 8：35(約10分乗車)
 問 合 せ：TEL(048)683-1764・小野

「見沼たんぼくらの」をお友達に紹介してください! 「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう! 年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

〔編集・発行〕見沼たんぼくらの

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX:(048)683-1764

URL: <http://minumatanbo.web.fc2.com/>